



# 思川だより



令和元年7月23日 第68号

## 工事等の状況（令和元年6月末）

今年の3月から、南摩ダムの現場を迂回するルート（新設の付替県道の杓子沢と粟沢の間の区間）の供用を開始しました。これにより当道路沿いから南摩ダムの現場が一望できる状況になっています。

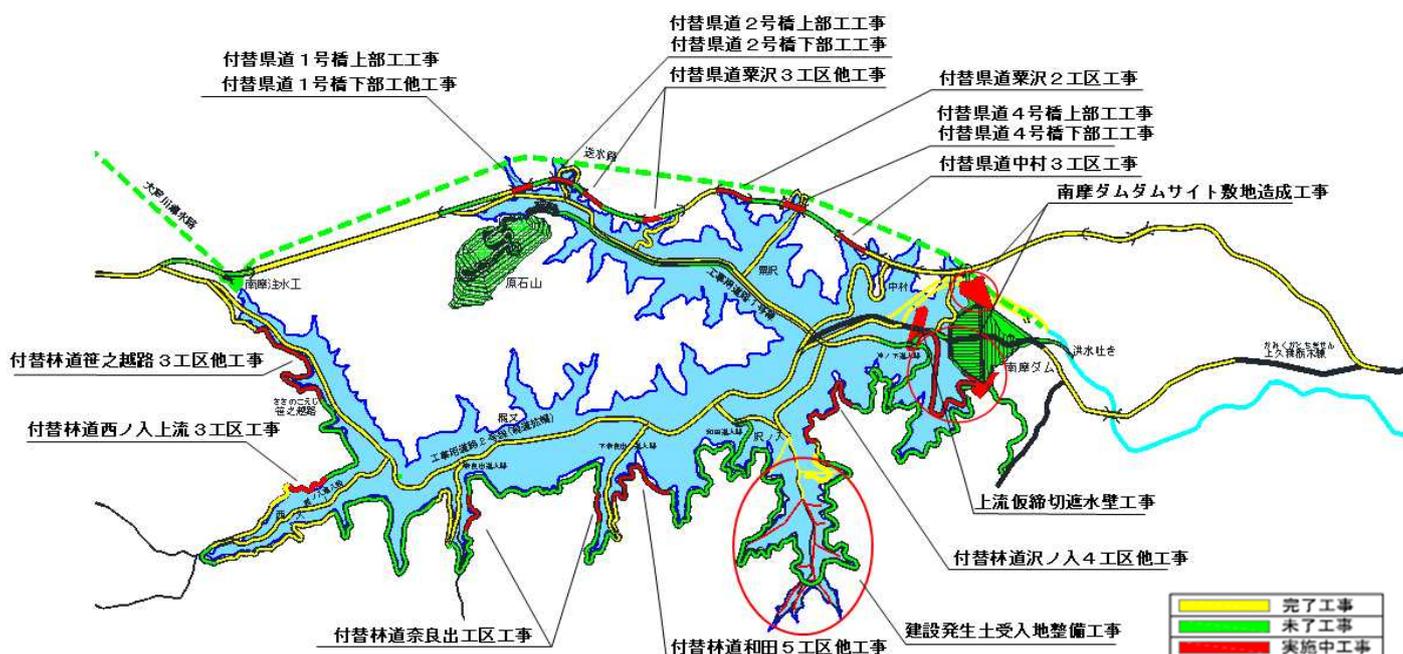
ダム堤体を造る場所（ダムサイト）では、立木伐採をほぼ終えました。引き続き、ダムサイトの左右岸の尾根上部を掘削する「南摩ダムダムサイト敷地造成工事」を開始する予定です。

また、付替道路の工事の状況ですが、付替県道（南摩川の左岸側）が計画の約8割、付替林道（南摩川の右岸側）が計画の約2割の進捗率となっています。それぞれ令和2年度、令和5年度の全線完成を目指して工事を進めてまいります。

一方、南摩ダム～大芦川～黒川を結ぶ導水路の工事については、大芦川及び黒川に造る「取水・放流工施設」の敷地の立木伐採をほぼ終えました。年度内の導水路工事の着手を目指して契約手続を進めています。

地域の皆様には、何かとご迷惑をおかけしますが、皆様の生活環境及び周辺自然環境に十分に配慮して工事を進めてまいります。さらには、建設中及び完成後の南摩ダムが、地域にとって重要な観光資源の一つとなるよう、関係機関、地元関係者、協力業者の皆様とともに必要な取組を進めてまいりたいと考えています。

引き続き、当事業へのご理解、ご協力のほど、よろしくごお願い申し上げます。



南摩ダム貯水池周辺の工事等位置図（令和元年6月末現在）

## 周辺環境への配慮・保全対策の取組

思川開発事業では、周辺環境へ配慮し、工事用車両の交通ルール・マナーの遵守は勿論のことですが、工事の本格化にあたっては様々な環境保全対策を実施してまいります。工事に伴う粉塵や騒音等については散水車等による散水・ミスト噴霧、低騒音型重機の使用、防音壁や防音扉等の対策を講じます。工事に伴う濁水については濁水処理設備や沈砂池等を設けて河川等への流出を抑制します。特に、騒音や河川水質等については、各環境基準等を超過しないように継続的に監視していきます。

また、自然環境の保全対策も継続的に実施しています。構造物の新設等に伴う地形改変部については、地域在来種による緑化を施すなどして、できる限りの植生復元に努めています。工事施工箇所に生育するセツブンソウ、カザグルマ等の希少な植物については、生態を踏まえ移植適地や時期を選定・検討し、種の保全を行っています。今年も、移植したセツブンソウがきれいに開花しています。



付替県道の植生復元の状況（約8年経過）

（平成23年4月）

（令和元年7月）



セツブンソウの開花状況

（平成31年2月）

## 上南摩の動植物

和名：ムカシヤンマ 学名：*Tanypteryx pryeri*

目名：トンボ目

科名：ムカシヤンマ科

分布：日本の固有種であり、平地から山地にかけて分布する。

本州、九州、佐渡島

（栃木県内：日光市、宇都宮市、鹿沼市、栃木市など）

○栃木県：準絶滅危惧（Cランク）

腹長は、雄45～54mm、雌44～54mm。後翅長は、雄39～45mm、雌40～48mm。黒地に黄色の斑紋をもち、翅胸前面は淡褐色をしています。複眼は黒褐色で左右は離れています。

成虫は5月上旬に出現し、平地では6月下旬、山地では8月下旬まで見られます。成虫は溪流の樹林を緩やかに飛翔します。また、樹幹や地面の上などで静止していることも多いです。雌は染み出した水がしたたり落ちる斜面や湿地で、湿った土や苔の間に産卵します。幼虫は湿った土やコケの間に穴を掘り、半陸上で生活をし、3～4年かけて成長します。

思川開発建設所では、環境保全対策の基礎資料を収集する目的として幼虫のモニタリング調査を行っています。今年度も6月に産卵中のムカシヤンマを発見しました（写真）。

（出典：レッドデータブックとちぎ 2018 改訂版）



事業地内の湿地で産卵するムカシヤンマ

# 思川散策

＜思わず行きたくなる思川＞を発見する「思川散策」  
栃木市惣社町の大神神社をピックアップ

## 貴重な体験 茅の輪くぐりが出来る大神神社

今回、栃木市惣社町にある大神神社おのみわじんじやに行ってきました。  
実は思川の名前の由来に関係していると言い伝えられています。下野市の豪家の一人娘お三輪が病床につき、婿の市太郎は、お三輪の回復を祈るため、毎晩家を抜け出し、川を渡って大神神社へお詣りをしていました。ところが、市太郎が毎晩黙って家を抜け出すのは、他に好きな人ができたと思いこんだお三輪は、夫を愛するあまり大蛇に姿を変え、夫をのみ込んでしまいました。そのような人の思いから、思いの川「思川」と呼ぶようになったという伝説があります。



茅の輪（ちのわ）くぐり

写真は茅の輪（ちのわ）くぐりと呼ばれるものです。心身に災害が起こる原因を取り除き、幸福と繁栄を迎えるために、罪穢れを祓い清める夏の神事です。茅の輪くぐりを経験できる神社は少ないと聞きました。この貴重な神事を体験し、身も心もリフレッシュできました。

## 再発見！鹿沼の魅力（第12回）

### 医王寺いおうじ（別名東高野山）

東武日光線楡木駅から西へ車で約10分の場所（鹿沼市北半田）に、弘法大師から東の高野山の銘をいただいたと伝わる約1300年の歴史を持つ医王寺があります。

このお寺は、日光を開山した勝道上人によって765年に創建されたもので、その銘にふさわしく広い境内には県の重要文化財に指定された見事な唐門や多くの建物が建ち並び、江戸時代に遠方から詣でた多くの人たちが宿泊した宿坊も残っており、当時の隆盛をしのぶことができます。

歴史の重みと荘厳な風格を持つ医王寺に足を運び、深冷な空気の境内をゆっくり歩いてみると自然と心の安らぎが得られることでしょう。



唐門



宿坊

## アユ釣り解禁！！

思川、黒川、大芦川などで、令和最初のアユ釣り解禁となりました。黒川流域（黒川漁業協同組合）は6月8日（土）に、思川流域（小倉川漁業協同組合）は6月9日（日）に解禁日を迎えました。解禁日にそなえて両漁業協同組合では多くのアユの放流を行い、解禁初日から腕を競い合う太公望で賑わっています。まだまだシーズンが続きます。おいしい清流アユを求めて、皆様も出かけられてみてはいかがでしょうか。



太公望の釣果

＜ 仮排水路トンネル ～川の流れを切り替える～ ＞

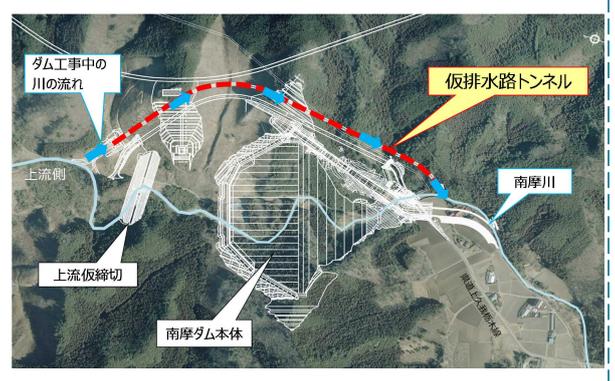
ダムの堤体建設の際に、流水があると河川内で工事ができないため、川の流れを従来の位置から一時的に迂回させる仮排水路を建設します。

仮排水路は、トンネルで建設する場合や開渠(水路)で建設する場合がありますが、一般的にはダムのすぐ脇の山に迂回するようにトンネルを掘る方法が採用されます。

このトンネルを「仮排水路トンネル」といいます。

南摩ダムの仮排水路トンネルは、ダム建設予定地の左岸側の山を掘って建設され、トンネル内高さ・幅が約4m、延長807mで平成23年3月に完成しています。

仮排水路トンネルは、ダム本体工事が完成してその役目を終えると、ダムの水を貯め始める時にコンクリートで塞ぎます。



南摩ダムの仮排水路トンネル

下野かるたより

栃木県内の地元かるたを用いて、様々な歴史・文物を紹介するこのコーナー。引き続き、『下野かるた』（栃木県文化協会発行）からの紹介です。

くさつき育てる鹿沼土

鹿沼は国内有数のさつきの産地ですが、それに一役買っているのが鹿沼土です。今号では、鹿沼土にまつわる、かるたをご紹介します。

鹿沼土は、数万年前の赤城山の噴火による火山砂礫が、積み重なって風化したものです。通気・保水・排水性に富み、さつきをはじめとした酸性を好む植物に適しています。鹿沼市を中心に産出された鹿沼土は、全国に出荷されています。



編集後記

大暑は迎えましたが、まだまだ梅雨空が続き、夏の陽ざしが待ち遠しい季節となっています。季節の変わり目となりますが、皆様におかれましては、体調を崩されることのないようお過ごし下さい。引き続き、思川開発事業へのご理解・ご協力をお願いいたします。

お知らせ

- ▼思川開発建設所では、随時、現場をご案内いたします！詳しくはお電話またはHPをご覧ください！
- ▼「思川だより」に関するご意見・ご要望を募集しています！お気軽に下記連絡先までお寄せ下さい！

編集・発行



独立行政法人水資源機構 思川開発建設所  
 〒322-0305 栃木県鹿沼市口栗野 839-2  
 Tel (0289) 85-1110 Fax (0289) 85-1211  
<http://www.water.go.jp/kanto/omoigawa/index.html>



思川開発 検索